



幣 變  
ハ 示  
ト シ  
主  
否 ヤ  
ノ 謂  
ニ 利  
二 五  
王 以  
現 今  
貨 通



114  
A 2450

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a letter or document, written in a cursive style.

大藏卿佐野常民

天正十一年四月  
大藏卿佐野常民  
贈

2521



114  
A 2450



大藏卿佐野常民

大隈  
考議ノ建議ヲ按スルニ紙幣ヲ消却シテ公  
貨通用ト為スニ在リ此ノ寔ニ普通ノ正則ニシテ殊ニ  
現今ノ如ク紙幣價格ノ変動甚シキ時ニ於テハ最  
モ以テ必用ノ政策ヲ疑フ容レサルハシ然レトモ今俄  
ニ五千萬圓ノ外債ヲ募ルノ一點ニ至リテハ即チ  
ニ有利有期ノ外債ニ變スル  
ノ謂ニシテ畫策ノ如ク將來果シテ償還ニ得ルヤ  
否ヤノ一ニ於テ深ク考量セサルハカラヌ且國會ノ設  
立ヲ主張シ噴ク止マサルノ今日ニ在ラハ奇貨口實  
トシテ為メニ非常ノ變動ヲ醸成スルモ測ルハカラヌ  
此亦深ク顧慮セサルハカラサルナリ因テ審極スルニ紙  
幣變動ノ實因ハ大隈考議言フ所ノ如ク輸出入ノ不

天正十一年四月  
天保供寄贈

2521

財政ノ事  
テ先  
莫ク上  
諸官一應  
ス(カラカ)  
齊シ  
施政上  
ニ辛苦  
スル難  
好手  
見  
其

大正十一年四月  
大藏卿佐野常民  
贈

2521

大藏卿佐野常民

スルニ紙幣ヲ消却シテ正  
寔ニ普通ノ正則ニシテ殊ニ  
変動甚シキ時ニ於テハ最  
モ容レサルハシ然レトモ今俄  
ルノ一點ニ至リテハ即チ  
有利有期ノ外債ニ變スル  
有来果シテ償還ニ得ルヤ  
望セサルハカラヌ且國會ノ設  
今日ニ在ラハ奇貨口實  
ニシテ釀成スルモ測ルハカラス  
ツサレナリ因テ審極スルニ紙  
議言フ所、如ク輸入ノ不

財政ノ事件ニ於テ動侯ラ旨トシ果請上奏ス(才内)勅アリ謹  
テ九月十三年度各官廳經費、於テ三百萬圓ヲ減縮スル豫  
算ヲ上呈セリ然レ其議行ハズ是紙幣下落物價騰貴、職由ニ  
諸官廳ノ費用支弁シ難キヲ其多、居ルカ故、以際處ニ有畧  
ス(カラカハ)亦公ヲ得サレド如シト難レ諸官廳ニ於テ動侯、聖詔ヲ服  
齊シテ寫事ニシ、從フ才ハ實施ノ際必其剩餘ノ實ヲ視ルハシ且  
施政上積リノ方法ヲ以テ成ルハク紙幣消却ノ目的ヲ達スヘ  
ニ辛苦經營セハ亦以テ別文三百萬圓ノ紙幣ヲ該年度ニ消却  
スル難カラザルハシ且其他ノ方法、於テ財政ノ困難ヲ救済スル  
好手段、再三熟考ヲ加レトモ其本支各議、外更ニ殊異ニ意  
見有之ガ故、尙本議、於テ其才盡心、才外ヲ補、才變スル以  
其理取テ條說スルカ知

十二年度輸出  
ノ差ハ七百五十万  
円餘ニ至ヘリ故  
ニ此項ノ輸出ハ  
一千万円以上額ト  
ナルシ

均舊ニ仍リ許多ノ正貨以テ其差ヲ補フ今至  
ルマテ絶ヘサルニ依リ且紙幣多額ノ致ス所ナリ故ニ之  
ヲ急濟スルニハ正貨通用ノ制ニ若クハナシト雖凡既  
ニ前述  
寧ニ度  
際畧ト

第一

此ラ  
年

此ノモノトス  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

四トシ其最ニ著ルシキ等差ヲ生スルノ時ニ至リ出  
シテ以テ紙幣ト交換スルノ用ニ供シ其交換セル紙  
幣ハ此ヲ以テ茶生絲等ノ如キ貿易上最モ其力  
ヲ有スル物品ノ荷為替或ハ付入元金ニ宣與スル  
ナハ物品ノ種差ト其取扱人ノ意向ト有シ其  
中  
ト  
却スル

此方路ハ現行ノ金札引換公債證書ヲ以テ一々年  
七百万円、此三々年分二千百万円歳入ノ餘額  
ヲ以テ一々年三百万円、此五々年分一千五百万  
円減債方按中紙幣消却ニ属スル金額ヲ以テ

十三年度輸出  
ノ差ハ七百五十万  
円餘ニ至レリ故  
ニ此項ノ輸出ハ  
一千四百五十万  
円ニシ

均舊ニ仍リ許多ノ正貨ヲ以テ其差ヲ補フ今に至  
ルマテ絶ヘサルニ依リ且紙幣多額ノ致ス所ナリ故ニ之  
ヲ急濟スルニハ正貨通用ノ制ニ若クハナシト雖モ既  
ニ前述スルカ如キ時勢ト難事トヲ觀察スルナ  
寧ニ交通ノ考極リテ之ヲ救済スル可トス其  
際畧左ノ如シ

第一千五百万円ヲ輸出物品ノ先拂代價トシテ

外債ニシ外債ニスルニ機曾アリ貿易上不平均ノ

差額補充ノ用ニ供シ保テ輸出増進ノ資ニ

轉用スル

此ラ外債ニスルノ法ハ年六分三ヶ月据ヘ還中四  
年月ヨリ向テ五ヶ月間ヲ以テ償還期限トシ借入  
ルモノトス貿易上ノ不平均一ヶ月凡四百五十万

四トシ其最ニ著ルニキ等差ヲ生スルノ時ニ出  
シテ以テ紙幣ト交換スルノ用ニ供シ其交換セル紙  
幣中此ヲ以テ茶生絲等ノ如キ貿易上最ニ力  
ヲ有スル物品ノ荷為替或ハ付入金ニ貸與スル  
ナハ物品ノ種類ト其取扱人ノ適否并其  
方法ハ指密ニ査定イタス中目的一面銀債ノ騰  
貴ヲ抑制シ一面輸出ノ増加ヲ奨励ス一面等而得  
ト謂フヘキナリ

第二 紙幣四千六百万円ヲ五ヶ月間ヲ期シテ消  
却スル

此方途ハ現行ノ金札引換公債證書ヲ以テ一ヶ月  
七百万円ノ、此三ヶ月分二千百万円減入ノ餘額  
ヲ以テ一ヶ月三百万円ノ、此五ヶ月分一千五百万  
円減債方按中紙幣消却ニ属スル金額ヲ以テ

本項ノ如  
均セケル  
未ノ景況  
ルヲ免カ  
慘状云  
ラ十五百  
情況  
處スル

本項銀  
及七  
既

ヲ以テ其差ヲ補フ一今ニ至  
幣多類ノ改ス所ナリ故ニ之  
制ニ若クハナシト雖凡既  
難事トシテ觀察スルハ  
之ヲ救済スル可トス其ノ  
出物品ノ先拂代價トシテ  
機會アリ 貿易上不平均ノ  
供シ 保テ輸出増進ノ資ニ  
十六分三ヶ年据ヘ置キ四ヶ  
月ヲ以テ償還期限トシ借入  
不平均一ヶ年凡四五百万

等差ヲ生スル時ニ与リ出  
ルノ用ニ供シ其交換セル紙  
幣ノ如キ貿易上最モ其力  
習或ハ付入元金ニ資與スル  
人、適否并ニ其 一面銀債ノ騰  
タスル中目的 一海軍而得  
ノ増加ヲ將テ勵ス一海軍而得  
四ヶ五ヶ年間ヲ期シテ濟  
換公債證書ヲ以テ一ヶ年  
分二千百万四歳入ノ餘額  
、此五ヶ年分一千五百万  
消却ニ属スル金額ヲ以テ

本項ノ如ク差額補充用ニ供セラル得サル所以者ハ輸出入平  
均セラル、~~不~~到底紙幣ノ價格ヲ維持スル能ハスニ當春  
来ノ景況ノ如ク銀貨壹圓四六枚以上直ニ二圓ニ騰貴スル勢ア  
ルヲ免カレサナリ若シ現更其場合ニ至ルハ財政ノ困難民生ノ  
慘状云々カラス今更之ヲ慨想スルハ悚然トシテ自禁ヘサルナリ因  
テ十五百万圓外債ヲ為サシハ勢テ内債ヲ起スルナリ然レトモ今日ノ  
情況ニ對シテ觀ハシ内債ノ擧ヤ言フべし、~~實際~~ 實際ニ對シテ  
本項ハ如ク物ニ先拂代價トシテ借入ル外債ノ為テ外之  
ニ屬スルノ手段ナリ

本項銀債ノ騰貴ヲ抑制スルノ事ハ紙幣ノ價格本年未ダ明春  
ニ及ビ變動太甚ニシテ現況ニ至ラ之ヲ處置セントスルモ恐ラクハ事  
既ニ及ハサルハシ故ニ以テ際必厚ク富議ヲ奏セテ之ヲ請フ

一々年平均二百万圓、此五々年分一千万圓以上  
 五々年分合計四千六百万圓ヲ消却スルノ目的ニシ  
 テ十七年度ノ末日ニ於テ流通紙幣ノ總額ハ六  
 千六百六十五万圓トナリ 本年三月卅一日流通額  
一億二千二百六十五万圓 明治  
 十年西南事件、於テ止ムヲ得ズ増發セシ紙幣  
 四千二百万圓 一十五万圓  
高二千七百万圓増發行高 銀行ヨリ借入ヲ全  
 消シタル上猶オ四百萬圓ヲ消却スルノ計算ナレハ  
 漸次其價格ヲ復シ大ニ紙幣流通上信用ヲ得  
 ンヤ必セリ

右兩債ノ償還方法ハ酒類稅則ヲ改正シ 酒類營業  
稅ハ免除ノ  
 帳一石一圓四ヲ貳圓トスルオハ更ニ四百七十萬餘圓ヲ  
 得(シ今外債償還ノ据置期限内三々年ハ一々年  
 九十萬圓、ニシテ四々年目ヨリ元利濟済シ年、

凡百九十万圓 但五々年目ヨリ利息九十万圓ハ年々ヲ得テ  
連減スモノナリノ金札公債利息モ亦同ニ 償  
 却スル、割合トナル此レ、金札引換公債 消却ヲ合  
 算スレハ初年ニ百三十二万圓 外債利息九十万圓金札  
公債利息四十二万圓 欠年  
 二百七十四万圓 外債利息九十万圓金札  
公債利息 第三年ニ二  
 百十六万圓 外債利息九十万圓金札  
公債利息百二十六万圓 右ノ四百七十萬餘  
 圓ヲ以テ之カ償還ニ充ルル十分ノ盈餘アリ第四年  
 ニ五リニ口ノ元利合計五百四十七万圓 外債利息九十万圓  
金札公債利息三  
 百五十ナリ一々年ノ計算上ヨリ觀ルハ出入相償ハス  
 ト難氏既ニ前段三々年間ノ殘餘合計八百八十八萬  
 圓之ニ加フルニ次節ノ荷為替及ヒ仕入元金ノ利子 以  
本五百萬圓五分利  
一々年二千五万圓 三々年分七十五萬圓アリトス其合計九  
 百六十萬餘圓ニ上ルノ計算ナリ故ニ第四年以後償  
 還資金 即ハナシ上ノ文ノ酒  
業稅上リ高 四百七十萬餘圓ニシテ其不足七十餘

万四千補フ。前段ノ九百六十餘圓ヲ以テスレハ殆  
 シト十四年ヲ支フルノ算立トナル。況ヤ烟十其他事業  
 ノ擴張ニ隨ヒ増税ノ兆候アルニ於テヤ  
 但以上ノ二債ハ物品渡シ并テ正債拂ナルヲ以テ之ヲ  
 濟シ又他ノ輸出品ヲ輸送シ且便宜地金ヲ購求シ以  
 盛ニ正債ヲ封造スルニ在ルナリ。若シ貿易上平均ヲ得  
 ラ美額補充ノ算ヲ止ムルノ機會ニ達セハ募集ノ金  
 額ハ直ニ返納スルニ妨ナキナリ。又將來ノ時機ニ依リ  
 更ニ一千万圓ヲ増借シ以テ紙幣準備ノ基金ヲ増  
 加スルハ平常紙幣價格ノ変動ヲ大ニ鎮壓スルノ  
 効カアルノミナラス亦以テ萬一ノ禍難戰中況ニ備フ  
 ルヲ得ヘシ

既ニ五ヶ年ヲ過レハ年々歳入ノ餘額三百萬圓減債  
 金二百萬圓合計五百萬圓ハ之ヲ國庫ニ儲存シ滿十ヶ  
 年ニ至リ其合計五千萬圓ニ上ル。及ンテ始テ紙幣ノ  
 交換ニ着手スルモノトス  
 此ノ如クナルハ紙幣幣價ニ其價格ヲ保チ毫モ正債ト異  
 ナルヲナシト謂フ。非ス小差ニ止マリテ大差ナカラシ  
 ヲ止マレハ急濟即治ノ法ニ非スト。雖凡既ニ小額ノ外  
 債ヲ以テ貿易上ノ不平均ヲ調和シ又四千六百萬圓  
 ノ紙幣ヲ消却シ其他五ヶ年間ニ興ル所ノ事業即  
 物産ノ蕃殖海關稅則ノ改正外國有公債ノ償還度限  
 等ヲ加算スルハ全治ノ効ヲ奏スル未タ又シモ  
 遠ト謂フハカラス。又政府ニ於テ奮テ昨年三月勤儉  
 ノ聖詔ヲ奉體シ諸官省ノ定額ヲシテ十二年度ノ



万圓ヲ補フニ前段ハ九百六十萬餘圓ヲ以テスレハ殆  
ント十四年ヲ支ナルノ算立トナル況ヤ烟中其他事業  
ノ擴張ニ直ヒ増税ノ兆候アルニ於テツヤ  
但以上ノ二債ハ物品渡シ并テ正債拂ナルヲ以テ之ヲ  
濟スノ道ハ政府ニ於テ米穀政府事務見込銅類ヲ輸出  
シ又他ノ輸出品ヲ輸送シ且便宜地金ヲ賄求シ以  
盛ニ正債ヲ封造スルニ在ルナリ若シ貿易上平均ヲ得  
ラ美額補充ノ算ヲ止ムルノ機會ニ達セハ募集ノ金  
額ハ直ニ込納スルモ妨ナキナリ又將來ノ時機ニ依リ  
更ニ一千万圓ヲ増借シ以テ紙幣準備ノ基金ヲ増  
加スルハ平常紙幣價格ノ変動ヲ大ニ鎮壓スルノ  
効カアルノミナラス亦以テ萬一ノ禍難戰時況ニ備フ  
ルヲ得ヘシ

米穀

既ニ五ヶ年ヲ過レハ年々歳入ノ餘額三百萬圓減債  
金二百萬圓合計五百萬圓ハ之ヲ國庫ニ儲存シ滿十ヲ  
年ニ至リ其合計五千萬圓ニ上ルハ及ンテ始テ紙幣ノ  
交換ニ着手スルモノトス  
此ノ如クナルハ紙幣幣價ニ其價格ヲ保チ毫モ正債ト異  
ナルヲナシト謂フニ非ス小差ニ止マリテ大差ナカラシ  
ムルニ止マレハ急濟即治ノ法ニ非スト雖凡既ニ小額ノ外  
債ヲ以テ貿易上ノ不平均ヲ調和シ又四千六百萬圓  
ノ紙幣ヲ消却シ其他五ヶ年間ニ興ル所ノ事業即  
物産ノ蕃殖海關稅則ノ改正外國倉庫公債ノ償還  
度限<sup>十四年</sup>等ヲ加算スルハ全治ノ効ヲ奏スル未タ又シモ  
遠ト謂フハカラス又政府ニ於テ奮テ昨年三月勤儉  
ノ聖詔ヲ奉體シ諸官省ノ志願ヲシテ十二年度ノ

百六十万餘圓ヲ以テスレハ殆  
盡トナル況ヤ烟中其他事業  
戻アルニ於テヤ

シ并テ正貨拂ナルヲ以テ之ヲ  
米穀 政府事業 銅類ヲ輸出

ニシ且便宜地金ヲ贈求シ以  
任ルナリ若シ貿易上平均ヲ得  
ルノ機會ニ達セハ募集ノ金

キナリ又將來ノ時機ニ依リ  
以テ紙幣準備ノ基金ヲ増  
格ノ変動ヲ大ニ鎮壓スルノ

萬一ノ禍難 鐵中況ニ備フ

歳入ノ餘額三百萬圓減債  
之ヲ國庫ニ儲存シ滿ナラ  
ズ上ルニ及ンテ始テ紙幣ノ

其價格ヲ保チ毫モ正貨ト異  
左ニ止マリテ大差ナカラシムル必  
法ニ非スト雖凡既ニ小額ノ外

ヲ調和シ又四千六百萬圓  
今年商興ハ所ノ事業即  
改正外國舊公債ノ陸續累

治ノ効ヲ奏スル未タ又シモ  
於テ奮テ昨年三月勤儉

省ノ定額ヲシテ十二年度ノ

米穀輸出ヲ禁スルノ議ハ既ニ上呈セリ陸軍部裁可アラシムルニ

豫算ヨリ超過トシメテ 諸物價ハ近々低下ト見ユ 百般ノ冗費ヲ

省キ不急ノ土木ヲ省畧シ及ヒ外国支出ノ官費ヲ

減少シ加フルニ耐久ノ勉強力ヲ以テスル等亦宜キ以間

ノ要着ニシテ畢竟此方按ノ好結果ヲ表スルニ其案

行ノ如何ニ在ルニ

以上陳述スル所ハ唯方按ノ緊畧ニシテ若シ採納ヲ

蒙ラハ更ニ詳細確實ノ調査ヲ遂ク上呈スルニ